

令和7年度 学習指導計画

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	6単位
学科・類型		普通科Ⅱ類(理系)		学年	第2学年
使用教科書		Next 数学Ⅱ 数研出版			
使用副教材等		Connect 数学Ⅱ+B 数研出版			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>定義を正しく把握し、適用することができる。</p> <p>結論に対して、適切に根拠を与えることができる。</p>
---------	---

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	<p>第1章 式と証明</p> <p>第2章 複素数と方程式</p> <p>第3章 図形と方程式</p>	<p>3次式の展開と因数分解、整式の乗除および分数式の四則演算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。</p> <p>また、方程式について理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことおよび因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。</p> <p>座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>
2 学 期	<p>第4章 三角関数</p> <p>第5章 指数関数と対数関数</p> <p>第6章 微分法と積分法</p>	<p>角の概念を一般角まで拡張して、三角関数や三角関数の加法定理について理解し、それらの事象の考察に活用できるようにする。方程式や不等式は単位円と対応させて理解を深める。</p> <p>指数関数、対数関数及び微分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>例題を数問用意し、段階的に理解を深めさせる工夫を行う。小テスト等で理解の</p>
3 学 期	<p>数学Ⅲ</p> <p>第1章 関数</p> <p>第2章 極限</p> <p>第3章 微分法 (初等関数除く)</p>	<p>微分係数と導関数の違いを理解し、関数のグラフの接線の方程式や3次関数など高次関数の値の増減について調べることができるようにする。</p> <p>積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>例題を数問用意し、段階的に理解を深めさせる工夫を行う。小テスト等で理解の確認を行う。</p>

令和7年度 学習指導計画

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位
学科・類型		普通科Ⅱ類(理系)		学年	第2学年
使用教科書		Next 数学B 数研出版			
使用副教材等		Connect 数学II+B 数研出版			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>数列の基本的な公式を正しく使い、漸化式や数学的帰納法などの処理、考え方を定着する。 統計的な推測において、データを分析する手法を身に付ける。 日常のデータについてもどのようなことをすれば必要な情報が得られるのかを選択することができる。</p>
---------	--

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	<p>第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列</p>	<p>「数列」では、規則性から数列を表す式や数列の和の性質を調べる。その際に、正しく覚えるとともになぜ成り立つのかを自己再現できることにも留意する。</p>
2 学 期	<p>第3節 漸化式と数学的帰納法 第2章 統計的な推測</p>	<p>様々な解法があるが、どのタイプの漸化式でどの解法をとるのかを見極められるように定着を図る。 また、</p>
3 学 期	<p>第2節 統計的な推測</p>	<p>三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。</p>

令和4年度 学習指導計画

教科	数学	科目	数学C	単位数	2単位
学科・類型		普通科Ⅱ類(理系)		学年	第2学年
使用教科書		Next 数学C 数研出版			
使用副教材等		Connect 数学C 数研出版			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	ベクトルまたは数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	第1章 数と式 第2章 集合と命題	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。 不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。
2 学 期	第3章 2次関数	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
3 学 期	第4章 図形と計量 第5章 データの分析	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。

令和4年度 学習指導計画

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4単位
学科・類型		普通科Ⅱ類(文系) 普通科Ⅰ類		学年	第2学年
使用教科書		新編 数学Ⅱ (数研出版)			
使用副教材等		教科書傍用 3 TRIAL 数学Ⅱ+B+C (数研出版)			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数および微分・積分の考えについて 理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し, 論理的に表現する能力を養う。
---------	---

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	第一章 式と証明 ・式と計算 ・等式と不等式の証明 第二章 複素数と方程式 ・複素数と2次方程式の解 ・高次方程式 第三章 図形と方程式 ・点と直線 ・円 ・軌跡と領域	3次式の展開と因数分解, 整式の乗除および分数式の四則演算について理解できるようにするとともに, 等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また, 方程式について理解を深め, 数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことおよび因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。 座標や式を用いて, 直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。 例題を数問用意し, 段階的に理解を深めさせる工夫を行う。小テスト等で理解の確認を行う。
2 学 期	第四章 三角関数 : 三角関数 ・加法定理 第五章 指数関数と対数関数 ・指数関数 ・対数関数	角の概念を一般角まで拡張して, 三角関数や三角関数の加法定理について理解し, それらの事象の考察に活用できるようにする。方程式や不等式は単位円と対応させて理解を深める。 指数関数, 対数関数及び微分の考えについて理解し, それらの有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。 例題を数問用意し, 段階的に理解を深めさせる工夫を行う。小テスト等で理解の確認を行う。
3 学 期	第六章 微分法と積分法 ・微分係数と導関数 ・関数の値の変化 ・積分法	微分係数と導関数の違いを理解し, 関数のグラフの接線の方程式や3次関数など高次関数の値の増減について調べることができるようにする。 積分の考えについて理解し, それらの有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。 例題を数問用意し, 段階的に理解を深めさせる工夫を行う。小テスト等で理解の確認を行う。

令和7年度 学習指導計画

教科	数学	科目	数学B・C	単位数	2単位
学科・類型		普通科Ⅱ類(文系) 普通科Ⅰ類		学年	第2学年
使用教科書		新編 数学B, 数学C (数研出版)			
使用副教材等		教科書傍用 3TRIAL 数学Ⅱ+B+C(数研出版)			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>1. 小中学校での算数・数学の学びを深化させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。</p> <p>2. 事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>
---------	---

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	<p>【数学B】</p> <p>第1章 数列</p> <p>第1節 等差数列と等比数列</p> <p>1. 数列と一般項</p> <p>2. 等差数列</p> <p>3. 等差数列の和</p> <p>4. 等比数列</p> <p>5. 等比数列の和</p> <p>第2節</p> <p>6. 和の記号</p>	<p>1. 数列の概念及び用語の意味を理解させる。</p> <p>2. 等差数列の意味及び一般項を理解させる。</p> <p>3. 等差数列の和の公式を理解させる。</p> <p>4. 等比数列の意味及び一般項を理解させる。</p> <p>5. 等比数列の和の公式を理解させる。</p> <p>6. 記号Σの意味と性質、公式を理解させる。</p>
2 学 期	<p>第2節</p> <p>7. 階差数列</p> <p>8. いろいろな数列の和</p> <p>第3節</p> <p>9. 漸化式</p> <p>10. 数学的帰納法</p> <p>【数学C】</p> <p>第1章 平面上のベクトル</p> <p>第1節</p> <p>1. ベクトル</p> <p>2. ベクトルの演算</p> <p>3. ベクトルの成分</p> <p>4. ベクトルの内積</p> <p>第2節</p> <p>5. 位置ベクトル</p>	<p>7. 階差数列について理解させる。</p> <p>8. 和から一般項を求めること、分数の数列の和、等差数列と等比数列を組み合わせた数列の和などを理解させる。</p> <p>9. 初項と隣り合う2項間の関係から一般項を求める方法について理解させる。</p> <p>10. 数学的帰納法の原理をもとに、自然数nについて成り立つ方程式や不等式を証明する方法について理解させる。</p> <p>1. ベクトル方程式について理解させる。</p> <p>2. 座標空間の意味を理解し、座標平面に平行な平面の方程式や球の方程式について理解させる。</p> <p>3. 成分表示の意味を理解し、大きさが0でなく等しくない2つのベクトルで任意のベクトルを表せたり、平行や大きさを求められることについて理解する。</p> <p>4. ベクトルのなす角や成分表示、垂直条件について理解する。</p> <p>5. 位置ベクトルやベクトルの内分・外分について理解する。</p>
3 学 期	<p>第1章 平面上のベクトル</p> <p>第2節</p> <p>6. ベクトルの図形への応用</p> <p>7. 図形のベクトルによる表示</p> <p>第2章 空間のベクトル</p> <p>8. 空間の点</p> <p>9. 空間のベクトル</p> <p>10. ベクトルの成分</p> <p>11. ベクトルの内積</p> <p>12. ベクトルの図形への応用</p> <p>13. 座標空間における図形ベクトル総復習</p>	<p>6. 平面図形の性質をベクトルを用いて調べていくことを理解する。</p> <p>7. 2点を通る直線のベクトル方程式や垂直な直線のベクトル方程式について理解する。</p> <p>8. 座標空間や点の対称移動について理解する。</p> <p>9. 空間におけるベクトルの演算について、平面上のベクトルの場合と同様の法則が成り立つことを理解させる。</p> <p>10. 空間におけるベクトルの成分や演算、2点間の距離などについて理解させる。</p> <p>11. 空間におけるベクトルの内積を理解し、空間における垂直な2直線について調べさせる。</p> <p>12. 空間における位置ベクトルを理解し、空間図形の性質を調べさせる。</p> <p>13. ベクトルの内分・外分、平面や球面の方程式について理解する。ベクトルの内容を総復習し、基礎的な知識の定着を図るとともに、ベクトルを用いる良さについて考えさせる。</p>

